

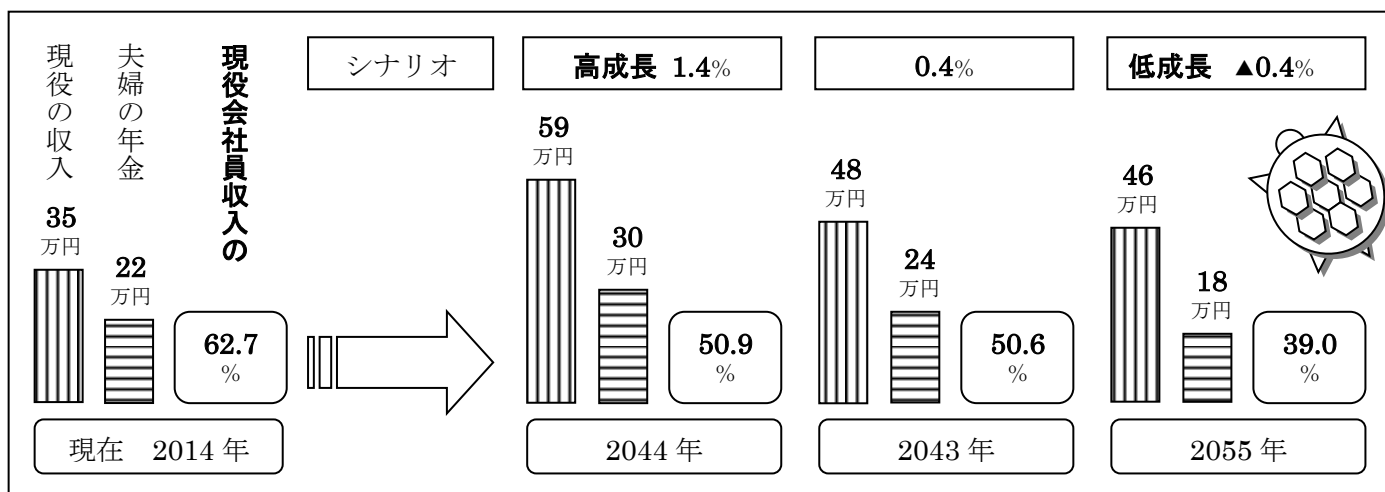
# 亀さん通信

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃、いかがお過ごしでしょうか！

亀のように歩みは遅くとも、『お金力』をしっかりと・確実に身に付けていただく【亀さん通信】第 117 号発信！

## 100 年安心って本当に大丈夫？

今月、厚生労働省は公的年金の長期的な収支を示す財政検証を公表。その結果は、**年金制度のもろさ**を浮き彫りにしました。女性などの就労拡大で保険料を支払う人が増える楽観的なシナリオに立っても、将来の高齢者が**政府公約の「現役収入比 50%」の年金**を受け取れるかどうか微妙です。果たして年金制度は維持できるのでしょうか？



現役会社員世帯の平均収入に対する年金額の割合（所得代替率）が 50%を下回るケースでは、働く人が増えず、経済成長率は 0.1%～▲0.4%と低迷します。現在、所得代替率は 62.7%、夫婦の年金額は 22 万円。高齢者や女性の労働参加が進まず、マイナス成長が続く最悪のシナリオでは、2036 年に 50%まで下がり、**2055 年には取り崩してきた積立金が枯渇して所得代替率は 39%まで低下。物価上昇を差し引いた年金額も 18 万円に減少する見通し。**

一方、所得代替率が 50%を確保するケースは、積立金の運用利回りが 4%台など**強気のシナリオが前提**となっています。最良のシナリオでは、所得代替率は 50.9%まで下がるものの、2044 年の年金額は 30 万円と現在より 4 割増加。今後 10 年間は実質 2%の経済成長が続くという楽観的な見通し。2009 年の前回検証では、積立金の運用利回りを 2004 年の 3.2%から 4.1%に引き上げ、「高すぎる」と批判を浴びました。今回も女性や高齢者の就労が進み、年金制度の支え手が 2030 年時点で 600 万人も増えるという高めの前提を置き、辻つまをあわせた面は否めません。正直に言って、**このシナリオが実現することはないでしょう…。**

今回の結果から見てきたのは、**公的年金の「安心」は今のままでは確保できない**ということ。年金制度は現役世代が生み出す富の一部を働けなくなった高齢者らに配分する仕組み。経済が成長するほど高齢者に年金を配りやすく、現役世代の負担も小さくなります。ですが、かつてのような高成長はもはや望めません。**高齢者は増え、現役世代は減るとい現実**を考えれば、高齢者と現役世代の双方が痛みを伴う改革も必要でしょう。それにしても、経済次第で年金制度の持続性が変わるという厚生労働省の主張はあまりに他人任せな感じがします。もちろんその言葉は、政治家の先生方にも言えることですが…。早く見せてください。**あなたたちの覚悟を！**

暑いのは苦手なんです、待ち遠しいなあ！ ギラギラした太陽が！

(株)亀山保険事務所 亀山裕弘 (ミフル) 1 級ファイナンシャル・プランニング 技能士 0575-28-2768 info@kameyama-hoken.com